

3-4 その他

3-4-1 分子研コロキウム

分子研コロキウムは、所長はもとより、所内全ての教授、准教授、研究者が集い、各人の専門分野を越えて学問的な刺激を享受することを趣旨とし、各々の専門分野で講師をお招きして開催する部門公開セミナーとは一線を画す。今年度 949 回を数える歴史あるセミナーであるが、コロキウムに参加する所員は、年々、減少する一途にあり、コロキウム本来の趣旨が所員に正しく理解されているかは疑わしい状況にある。1988 年「総合研究大学院大学」の設立、2003 年「国立大学法人法」の制定にともない、所長、教授、准教授が、研究所・大学院の運営により多くの時間を割かざるを得なくなるなど、コロキウムが始まった 1976 年当時と現在とでは研究所を取り巻く状況が大きく異なってきた事実はあるが、コロキウム本来の趣旨に立ち返り、その存在意義を高めるべく、2010 年度からコロキウムの改革が進められている。

本年度は、昨年度からの申し送りに基づき、(i) 領域推薦枠の導入と (ii) 4 月から 3 月までの通年開催を検討した。前者は、お招きする講師の選出に複数の教員が関わることでコロキウムへの関心を高めることが主な目的であり、後者は、コロキウムの開催が年末から年度末にかけて集中してしまうここ数年の傾向を考慮しての対策である。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当初の計画とは異なったが、領域推薦による開催は実現でき、通年開催の方針は次年度に引き継がれることになった。

コロナ禍においてもコロキウムを開催できる体制を整えるためにオンライン化を進めると共に、状況に応じて所外への公開やオンサイト・オンライン併用を採用するなどの対応をとった。研究者間の交流を目的として例年おこなわれてきたワイン会や懇親会は原則中止としたが、コロキウム後に別途オンラインの意見交換会などを設けるなどの代替案を採用した。オンライン化にともなって参加者は大幅に増え、所外公開時は 100 人前後の参加登録があるなど非常に盛況であった。議論も活発であり、オンライン化の良い面を認識することができた。一方で、所外公開のコロキウムでは、専門性の高い議論が活発におこなわれる反面、専門外の研究者や学生からの質問がし難いという意見もあり、運営方法はその都度改善していくことが必要になるであろう。新型コロナウイルス対策がきっかけであったが、オンラインでの所外発信という新しい選択肢ができたことで、コロキウムが講演者と所内外の研究者を広く巻き込んだ「ブレインストーミング」の場となることを期待したい。

以下に、2020 年度に行われた分子研コロキウム一覧を示す。

回	開催日	テーマ	講演者	参加人数
942	2020. 7. 3 (オンライン)	気泡が形作る有機-水二相反応場と酸化反応	倉橋 拓也 (長崎県立大学看護栄養学部教授)	37
943	2020. 7.22 (オンライン)	分子キラリティによる電流/スピン流変換機能の創出	須田 理行 (京都大学大学院工学研究科准教授)	54
		分子研で行った生物学研究	塚本 寿夫 (神戸大学大学院理学研究科准教授)	
944	2020. 9. 2 (オンライン)	Controlling Single-Molecule Motion at Surfaces	Prof. Leonhard Grill (University of Graz, Austria)	109
945	2020.10. 7 (オンライン)	Scanning Tunneling Spectroscopy of Molecules on a Superconducting Substrate	Prof. Katharina Franke (Freie Universität Berlin)	86

946	2020.11. 6 (オンライン・ オンサイト併用)	Where Science and Venture Capital Meet	Mr. Ken Hood (FusionX Ventures)	
	2020.11. 6 (オンライン・ オンサイト併用)	Supramolecular Polymerization: Its Significance and Applications	相田 卓三 (東京大学大学院工学系研究 科教授)	107
947	2020.11.25 (オンライン・ オンサイト併用)	革新的イオニクス材料創成と全固体電池 の実現——リチウム系を中心に——	菅野 了次 (東京工業大学科学技術創成 研究院教授)	46
948	2020.12.16 (オンライン・ オンサイト併用)	プラズモンの化学のその先へ Beyond Plasmonic Chemistry	三澤 弘明 (北海道大学電子科学研究所 特任教授)	27
949	2021. 3.26 (オンライン・ オンサイト併用)	次世代放射光と東北大学の役割	村松 淳司 (東北大学国際放射光イノ ベーション・スマート研究セン ター教授)	44
		次世代放射光計画の概要とコアリジョン コンセプトについて	高田 昌樹 (東北大学国際放射光イノ ベーション・スマート研究セン ター 教授)	
		次世代放射光コアリジョンビームライン	中村 哲也 (東北大学国際放射光イノ ベーション・スマート研究セン ター 教授)	